

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価 (4月14日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を養うため、授業計画、日課時程の再検討に取り組む。</p> <p>②課題研究の進め方やシチズンシップの視点を取り入れた取組について、研究を進める。</p>	<p>①弾力的なセメスター制の運用のより柔軟な運用を検討する。 50分授業の運用を円滑に行い、定期試験時程の見直しを行う。</p> <p>②教職員に本校のシチズンシップ教育の理念の浸透をはかる。 課題研究の授業プログラムを刷新する。</p>	<p>①必修修科目の増単科目も通年科目として扱い、同じ科目間での通年半期の扱いの違いをなくす。 試験日程、時程を教員の業務に無理なく運用できるように見直す。</p> <p>②社会に積極的に関与する力を身に付けることに加え、関わり方に関する教育も含まれることを周知し、授業で実践する。 課題研究の授業プログラムを関西地方の研修旅行と関連させた内容に変更する。</p>	<p>①半期と通年の扱いが同じ科目間で矛盾しないように整理できたか。 試験日程、時程が整理できたか。</p> <p>②多くの教員が、授業実践をすることができたか。 新たな課題研究の授業プログラムを策定できたか。</p>	<p>①必修修科目の増単科目も通年科目として扱いとした。同じ科目間での通年半期の扱いの違いをなくす。 試験日程、時程を教員の業務に無理なく運用できるように見直した。</p> <p>②シチズンシップ教育の公開研究授業や講演会を実施し、シチズンシップ教育に対する職員の理解を深化させることができた。 課題研究について、関西方面の研修旅行と関連させた年間プログラムに刷新することができた。</p>	<p>①セメスター制の廃止を含めた運用の検討が必要である。 多様な学習のニーズに対応した柔軟で質の高い学びの実現に対応する定期試験の運用を検討する。</p> <p>②シチズンシップ教育について、教科の枠を超えた実践が必要であり、複数教科における公開研究授業の実施について検討を行う。 課題研究の新プログラムを実施する中で必要な改善を行う。</p>	<p>①科目の内容と特性にしたがって通年科目と半期科目を設定すると共に、年次配当を考慮することで効果的な受講体制と成績評価を可能とした取組は高く評価できる。</p> <p>②複数教科での公開研究授業の実施は、教育方法のロールモデルにもなると共に、教員の質的向上に役立つのでさらに回数を増やすことが望ましい。 研修旅行が関西方面に変わることに伴う見学地の選定に際し、先端企業の工場・施設等の見学など生徒の将来の仕事への夢を考える一助となる箇所を加えると良いと思われる。</p>	<p>①通年科目と半期科目の整理が終了した。次年度以降、大きな変化なく新カリキュラム到来まで運用できるかが課題である。</p> <p>②職員が入れ替わった後も、シチズンシップ教育への理解を進める必要である。また、研修旅行と関連付け、課題研究プログラムを検討する必要がある。</p>	<p>①担当者間の引継ぎを円滑に行い完成したシステムの安定した運用を行う体制の構築していく。</p> <p>②シチズンシップ教育の視点を教育活動に活かす実践を進める。また、地域探究のプログラムを実践し、評価していく。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①学校行事や部活動を生徒の視線から見直して充実させ、自己有用感の醸成に結び付ける。</p> <p>②外国につながるのある生徒への学習支援を含め、SC、SSWや外部機関とも連携した支援を進める。</p>	<p>①これまでのルールを整理し、生徒の意見を取り入れた学校行事や部活動を運営する。 学校行事や部活動において地域と連携した取り組みを検討する。</p> <p>②生徒の見守りを日常的に学校全体で行う意識を持ち、生徒支援体制を構築していく。</p>	<p>①実行委員を始めとした生徒の意見を取り入れ、より整理された学校行事や部活動を運営する。 部活動の校外での活動や地域に開かれた学校行事を検討する。</p> <p>②生徒が安心・安全に学校生活を送れるように、基本的な生活習慣を身に付け、必要な時に相談しやすい支援を組織的に行っていく。</p>	<p>①生徒の考えを活かした学校行事や部活動の運営ができたか。 校外での部活動実績をあげられたか。地域に開かれた学校行事を運営できたか。</p> <p>②支援体制の整備、職員全体への意識付けができたか。また、学校全体での組織的で効果的な支援を行えたか。</p>	<p>①前年度の反省点を整理しながら、実行委員会や中心となる生徒から意見を取り入れた学校行事を運営した。 吹奏楽部やボランティア部が地域イベントに参加し、地域と連携した取組を実施することができた。</p> <p>②7月・12月にサポートドックを実施し、困りや不安のある生徒への適切な支援が行えた。また、担任を中心とした面談を適宜行い、SC、SSWとの連携による支援体制を構築できた。</p>	<p>①年間行事を踏まえ、学校行事を運営するための準備を計画的に進めていくための検討をする。</p> <p>②SC、SSWを交えたスクリーニング会議を円滑に行うために、サポートドックの実施時期の見直しが必要と感じている。また、担任の負担を軽減できるような対応の必要性を感じている。</p>	<p>①教師・PTA委員・生徒会生徒・部活生徒および学校運営協議会委員が参加した「コスモスのつどい」に参加させて頂き、生徒との会話が出来たことはとても有意義で、本校の生徒指導や支援の一端を垣間見ることができ、この取組を高く評価する。</p> <p>②生徒の心のケアに関してSCやSSWの活動頻度を増やすことが必要な時代で、県教委とも相談・検討をした方がよい。本校では未だ無いようであるが、SNS等の乱用など将来に備えて具体策を検討しておいた方がよいと思われる。</p>	<p>①実行委員を始めとして生徒の意見を反映した学校行事を運営できた。引き続き生徒が主体的に行事に参加できる取組を推進する。</p> <p>②単位制総合学科における学級経営の難しさがある中で担任・保健室の努力により、安心・安全な学校生活を送らせる環境を整えることができた。今後はSCやSSWといった専門職種と、教員の両者の強みが生きるようにさらに相互理解を深めていきたい。</p>	<p>①校外の施設等と連携するなど地域と協働した取り組みを進める。計画性もちつつ、生徒を巻き込みながら学校行事を運営していく。</p> <p>②担任・保健室の負担感を軽減できるように、教職員が斉一な支援を行なう。 SCやSSWをテーマにした職員研修を開催する。</p>
3 進路指導・支援	<p>①卒業後を見据えて、外国につながる生徒の学習や生活指導</p>	<p>①ひとり一人の実情に即した進路決定をはかる。</p>	<p>①個別の面談を通じて、自身の学力の客観的把握をさせ、受験先や受験方法</p>	<p>①卒業年次生個々の希望に即した進路実現ができたか。</p>	<p>①個々の学力や進路希望を踏まえた受験指導がなされた。</p>	<p>①一部、自身の学力把握が難しい生徒がおり、客観的情報を受け入れられるような工夫が必要である。</p>	<p>①4年制大学と専修学校への進学者が大多数を占めている。中でも4年制大学への入試に関して、これからは総合</p>	<p>①概ね生徒の学力を把握しながら総合学科の強みを活かした進路活動に挑戦させることがで</p>	<p>①年内入試について、常に新たな情報を収集し、教員への周知を進める。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(4月14日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		制を整える。 ②生徒が自身や社会の課題に向き合い、解決に向けて学び続ける姿勢の涵養を図る。	②キャリア教育プログラムの基幹プログラムの充実を図る。また外部テストを通じて生徒が自分の学力の客観評価を行う。	決定について支援する。 ②「進路ガイダンス」「産業界社会と人間」での外部の教育力を活用したプログラムの充実を図る。また外部テストの振り返りをはかる。	②インタビュー実習や進路講演会の改善ができたか。また生徒が自身の客観的学力をつかみ、モチベーション向上につながることができたか。	②1年次で講演会の充実やインタビュー実習、支援校訪問などを実施した。学習成果発表会での発表につながる活動もあった。	②外部テストの取り組みが芳しくない生徒がおり、振り返り会の実施や、面談での利用促進を呼びかけていく必要がある。	型推薦入試が高く評価されるようになって来ており、それには総合学科はとても適していると考え。今後は、総合学科という特性を更に生かした進路指導を願う。 ②進路指導に際して、教員の負担が多くなるが、生徒一人一人の個性に寄り添う対応を期待する。	きたが、次年度以降も多様な生徒に対応していく必要がある。 ②総合学科での取り組みを通じた生徒の成長は数字としては目に見えにくい。教員の継続的総合的な観察が必要である。	②個々の生徒を把握し、適切な支援を行う。
4	地域等との協働	①生徒一人ひとりが学校から地域等へ向ける視線を育み、ボランティアや地域等との協働に取り組む姿勢の涵養に取り組む。	①他者を理解し、社会に貢献する意欲を育み、生涯にわたって行動できる資質を養う。	①既存のボランティア活動のみならず、生徒が積極的に地域に目を向けるための情報提供の機会を増やす。また、時事問題などへの関心を持たせるために地域交流などの機会を有効に活用する。	①生徒が参加可能な地域交流の場の提供を増やすことができたか。	①学校主導によるボランティア募集案内に留まらず、生徒自らが関心のある分野のボランティアを見つけられるよう支援を行い、児童福祉関連等のボランティア活動に参加する生徒が増加した。	①Google Classroomを活用した地域交流情報の提供は一定の成果を上げたが、年度後半にかけて参加人数が減少した。今後は活動の継続性を高める工夫や、未参加の生徒への関心を喚起する新たなアプローチの検討が必要である。	①生徒の部活動の成果を地元住民にPRできる方策として、長後商店街振興会や小田急長後駅などと協議すると、部活の活性化や生徒の励みになると思われるので期待したい。 ボランティア活動は大学でも単位化されており、重要な活動であるが、ボランティア先を確保することが大変である。地元の市役所や各種団体等に受入れ先の斡旋を依頼してはどうか。	①Google Classroomを活用してボランティア活動の情報提供を行い、生徒の参加を促すことができた。授業においても、地域の団体や企業から講師派遣を依頼し、生徒に時事問題への関心を持たせる契機とすることができた。ボランティア活動の継続性を高める工夫に課題が残っている。	①藤沢市ボランティアセンターや長後商店街等との連携を一層推進し、ボランティア活動に継続的に参加する生徒の育成を図るとともに、新たに活動へ参加する生徒の増加を目指す。授業等でも地域と交流する機会を積極的に取り入れていく。
5	学校管理 学校運営	①総合学科としての多彩な事業に取り組むことを通して、教員の協働性や組織力及び教育力を伸ばす。 ②職場の協働性を育むことを通して、労働時間の短縮に取り組むとともに、不祥事を未然に防止する。	①総合学科教育研究会の各種事業をととして、教員の協働性や組織力及び教育力を伸ばす。 ②定期試験の全体運営、各科目の試験運営の負担軽減に努める。	①夏季研修会、専門学校見学会、専門学校教職員との研究会、総合学科フェスタ、関東大会への積極的な参加を促す。 ②県下に導入される採点システムを円滑に運用し、採点の負担を軽減する。成績処理を統一して行うエクセルシートのブラッシュアップを行う。	①夏季研修会、専門学校見学会、専門学校教職員との研究会、総合学科フェスタ、関東大会への積極的な参加者が増えたか。 ②採点システムの運用実績、成績処理用のエクセルシート利用状況	①総合学科教育研究会の各種事業へ例年と同様の参加者数であったが、本校の広報活動等との日程の重なりがあったため、参加者数が極端に少ないものもあった。 ②採点システムの活用が進み、共同して採点する体制が浸透してきた。新様式成績処理シートの活用が行われた。	①総合学科教育研究会の各種事業の日程と調整を加えながら本校の行事予定に可能な限り反映させていく必要がある。 ②スキャナー取り込みの精度に問題があり、作業負担が一定程度残っている。成績処理シートの機能不具合に対応した新版整理する必要がある。	①学校教育目標の実現及び総合学科の特色のある学校づくりにむけ、努力されていることが分かりました。働き方改革を意識しつつ、引き続き、研究を重ねていただきたい。 ②スキャナー取り込みの精度に課題が残っている点については、生成AIを活用したOCR精度の向上やスキャン設定の最適化など技術的な解決策の検討を推奨します。 年2回の避難訓練は、極めて重要であり、近隣の藤沢消防長後出張所とのタイアップで一層の内容充実を図って頂きたい。 広域避難場所に指定されていることから、防災活動や避難者(学内外の)受入れ体制確保、非常食料の備蓄などを検討しておく必要がある時代と考える。	①総合学科教育研究会の各種事業を活用して、総合学科高校の特色や上級学校への理解を深めるとともに、教員の協働性や組織力を高めることができた。 ②採点システムの利用が職員間の利用の浸透が進んだ。利用形態の情報共有と体系化が課題となる。成績処理シートの整理ができた。作動の不具合の修正版への全面的な刷新が課題となる。災害時における実践的な対応が取れるように防災訓練の内容を工夫した。災害発生時に下校困難な生徒に対して非常用食糧の提供などの迅速な対応ができた。	①各種事業への参加を継続するとともに、教員間の情報共有の充実を図り、協働性や組織力の一層の向上を目指す。 ②旧版の使用を停止して、すべての教員で新しい版を利用させていく。 大規模災害時の受け入れ態勢について各グループとの共有を図り、万が一の災害において迅速な対応ができる体制を構築していく必要がある。

